

審議の方向性・内容について

諮問事項

『学び返し』を進めるための地域人材の活用について
→生涯学習サポーターについて論点を絞る

方向性・目標

サポーターは市民それぞれが習得した知識・技術を地域に還元することを目的として、自主的に登録してもらっているものである。そのような方に対して市民が一定の人数で集まって教えてほしいと思う内容でマッチングした場合に、その団体が講師を依頼して市が仲介するというもの。

サポーターは「学び返し」の趣旨に沿っているものであり、今回の諮問事項に関係する推進計画基本施策2の充実に非常に大切なものである。講師として教える「学び」と受講者としての「学び」で、「学び返し」、「学び合い」の循環が生まれ、地域の人たちとサポーターがつながり、学び合い、成長し合うことにつながるものであると考えている。

他に、学習センター講座、出前講座もあり、この3つを活用して地域でより活かし、地域の中で協力しながらやっていくことができれば地域の連携も深まっていくのではないかとこのところ今回の議論がつながればいい。

今年度の審議のポイント

多くの市民がこの制度を活用して、多様な学びあいが生まれるためにはどうしたらいいか。次の3点について考えていく。

①広く知ってもらう

→広報、内容の充実（指導内容の書き方の工夫）、市民が目で見えてどんなことをやっているか、興味を持ってもらうかという部分

②質を向上させる

→学習センターの生涯学習サポーター養成講座の拡充など、知識がある＝教えることができる、ではない、登録前後のフォローアップをどうするかという部分

③人材を掘り起こす

→他者からの推薦制度など、知識技術がある方をサポーターにつなげていくという部分

主にこの3点についての審議をしていくことで、将来的に「学び返し」や「学び合い」の循環が生まれ、地域での生涯学習活動の充実の手助けになると考える。

審議の流れ

月	内容
令和4年5月	審議の方向性①～③について
7月	同上
9月	同上、答申草案作成
11月	答申作成
令和5年1月	答申作成